

**中医協「第184回総会」
 社保審・介護保険部会の報告書に批判**

2010/12/16

12月15日の中医協・総会（会長：遠藤久夫・学習院大学経済学部教授）では、2012年度の診療・介護報酬同時改定に向けて、医療と介護の連携に関する意見交換を開始した。この日は介護保険の見直し状況を把握するために、11月30日に社会保障審議会・介護保険部会が取りまとめた報告書「介護保険制度の見直しに関する意見」の概要を老健局が説明。しかし、報告書に賛成意見と反対意見の両論併記が多く見られることから批判の声が上がった。

両論併記を問題視したのは、安達秀樹委員（京都府医師会副会長）。給付と負担に関する意見の大部分が両論併記になっていることに対して、「非常に大事な内容なのに、どうして意見を集約できなかったのか」と部会の対応に不満を表明した。老健局は「13回の審議を重ね、できる限り集約しようとした」と釈明したが、安達委員は納得せず、「もう少し突っ込んだ議論はできないのか、以前から疑問に思っていた。介護保険部会は意味があるのか」と批判。議論の在り方を抜本的に考え直し、できるだけ一本化した意見を出すよう求めた。

機能評価係数 の運用案を了承

この日は、DPCの機能評価係数 について、DPC評価分科会が10月にまとめた今後の運用案（10.10.27 中医協「2010年度第7回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」http://www.medical-lead.co.jp/documents/101027dpc_002.pdf 参照）が了承された。

また、2011年度から62病院（11月11日時点）が新たにDPCに参加することが報告された。2011年度の既存のDPC対象病院への対応として、医療機関別係数の設定を、機能評価係数と調整係数は現行値を引き続き使用する、機能評価係数 については、2011年度参加病院も含め、再計算して設定する という案が示され、了承された。

公知申請により4件の適応外薬が保険適用

総会では、公知申請に
 よって薬事承認を待たず
 に保険適用となった4件
 の適応外薬が報告された。
 いずれの品目も、11月の
 薬事・食品衛生審議会に
 おいて事前評価が終了し
 た日に保険適用された。
 次回の中医協開催は、
 2011年1月中旬の予定。

公知申請で保険適用された医薬品

一般名	製品名	製薬会社
メチルプレドニゾンコハク酸 エステルナトリウム	ソル・メドロール静注用40mg	ファイザー
	ソル・メドロール静注用125mg	
	ソル・メドロール静注用500mg	
	ソル・メドロール静注用1000mg	
リュープロレリン酢酸塩	リュープリン注射用1.88	武田薬品工業
	リュープリン注射用3.75	
エタンプトール塩酸塩	エサンプトール錠125mg	サンド
	エサンプトール錠250mg	
リファンピシン	エプトル125mg錠	科研製薬
	エプトル250mg錠	
	リファジンカプセル150mg	第一三共
	リマクタンカプセル150mg リファンピシンカプセル150mg「サンド」	サンド

中医協の資料を基に作成